

【守山市】 校務DX計画

1 現状と課題

本市では令和2年1月から校務支援システムを導入し、教職員の校務等における事務負担を軽減し、児童生徒と向き合う時間を確保することにより、教育の質的向上を図ってきた。システムを閉域網で稼働させ、また端末を有線接続のみとし設置場所を学校内に固定することで、セキュリティを担保していた。

しかしながら、校務におけるデータの利活用の点、業務をするロケーションが職員室に固定されるという点において硬直的な運用となるというデメリットも生じていた。

令和5年9月実施の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」では全国的に「クラウドサービスを活用しきれていない」状況が明らかになったが、本市も同様の状況であった。

このことから、令和7年1月の更新においては次の点で改善を図った。

- ①ゼロトラスト型に移行し、画面切り替え等を不要とした。
- ②校務支援システム、オフィスソフト（M365）をクラウド化した。
- ③校内全域において校務用端末の無線利用を可能とし、校務用端末を持ち運んで会議ができるようになり、ペーパーレス化を促進した。
- ④校務用端末を、自宅等から校務用のクラウドサービスが利用できることとし、ロケーションフリーの働き方を可能とした。
- ⑤校務用プリンタのトナー発注やメンテナンスの指示を、無線で自動化し、学校の発注業務を軽減した。
- ⑥端末の認証機能によりシングルサインオンを可能とし、余分なパスワード入力を不要とすることで作業を簡略化し、情報漏洩のリスクを低減化した。

この更新によりハード的な阻害要因はほぼ解消されたと考えるが、大きなシステム変更が生じたことや、多機能なソフトウェアが利用できるようになったことにより、学校現場への周知が十分にできていない状況である。今後は適切な研修や、好事例の横展開などを随時行うことなどにより、課題の解決を図る必要がある。

2 課題の解決に向けて

調査等で明らかとなった課題の解決を重点テーマとして進める。

(1) FAX利用の原則廃止

- ・教職員1人1人にメールアドレスを付与したことから、電子データでのやり取りを推奨する。

- ・ 外部事業者等とのFAX送受信については、受信先がFAXで資料を送付するよう指定した場合のみ利用可とする。

(2) OS環境の集約

- ・ 保護者向けのアンケートや欠席連絡等の機能は、これまでグーグルの機能を用いざるを得なかったが、データの移動や集約に時間を要していた。今後は校務に関するアプリケーションはM365環境に集約することで煩雑さをなくし、業務効率の改善を図る。
- ・ 学校から保護者への連絡ツール（ お便り配信、アンケート） については、各学校で取り組み状況が異なるため、メール配信機能からアプリ機能への移行を周知する。

(3) データ共有

- ・ マイクロソフト社のビジネス向けチャットツールである Teams を活用することでデータを共有し送受信データの低減を図るとともに、複数人での進捗管理、版管理を容易とする。

(4) 校務支援システムへの入力

- ・ 校務支援システムへの名簿情報の作業を確認し、不必要な手入力作業の一掃に取り組む。